



埼玉の豊かな 水とみどりを守り育む 分科会

～水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた検討部会～

「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」分科会
～水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた検討部会～

構成メンバー

「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」分科会 ～水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた検討部会～

構成メンバー(43者)

(一社)埼玉県浄化槽協会、(株)E-PAND、明治安田生命保険相互会社、(株)コミュニティネット

(公財)日本釣振興会埼玉県支部、マルキュー(株)、(株)シンプランニング、(株)テレビ埼玉

(株)PARQUE、(公財)埼玉県生態系保護協会、(株)スキーマ、毎日興業(株)、(株)ヴェルペンファルマ、東松山市
獨協大学、(株)地域デザインラボさいたま、(株)80%、NPO法人 埼玉ハンノウ大学、(株)CAWAZ、(株)温泉道場

古河産業(株)、(株)ブルーオーシャン研究所、(株)Akinai、ふじみ野オープン交流会、(株)住田工務店

(財)埼玉しあわせ未来基金、ニッコー(株)埼玉工場、(株)アイエフラッシュ、(株)ナレッジステーション

GSRコンサルティング(株)、MET Design Home(株)、埼玉大学、NPO法人 埼玉環境カウンセラー協会

(株)JTB埼玉支店、(株)レンタルのニッケン、(一社)埼玉県スマートまちづくり、(株)メイジエ

(一社)キャリアチャレンジ総合研究所、(株)大泉工場、芝浦工業大学

県河川環境課 県水環境課

発表者: 県河川環境課

部会における背景・課題等について

<川の国埼玉の将来像>

魅力的な水辺空間が
県民の大切な財産として
守り育てられ、
人々が賑わう
埼玉の豊かな川



<現状・課題>

○治水安全度を前提とした河川空間の利活用

○広大なスペースを活用した地球温暖化対策、

生物多様性戦略の推進

○多様な主体と連携した水辺空間の美化や保全、

生態系ネットワークの形成



「川の国埼玉」の実現にむけて

これまでは主に河川空間の利活用の視点での官民連携
(継続的な河川の維持管理に民間の経済活動の場をリンク)



「川の国埼玉」の実現にむけて

これまでは主に河川空間の利活用の視点での官民連携
(継続的な河川の維持管理に民間の経済活動の場をリンク)



「川の国埼玉」の実現にむけて

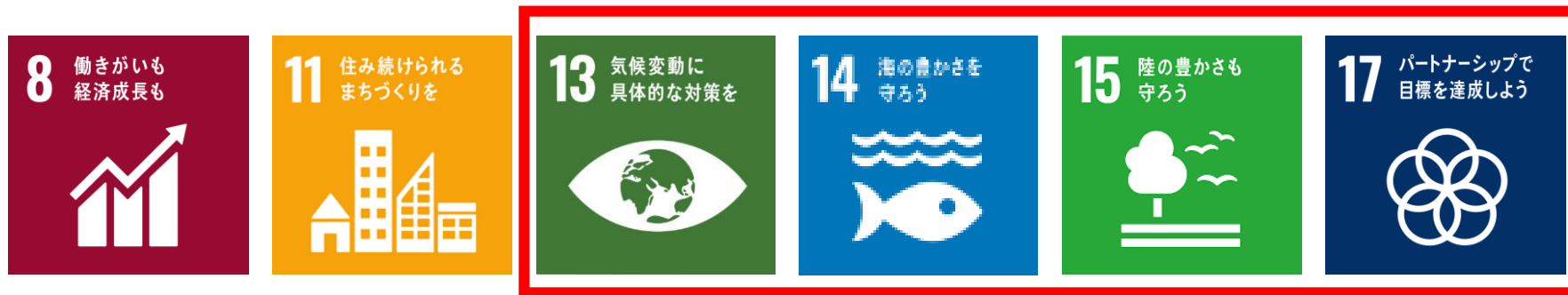
これまでは主に河川空間の利活用の視点での官民連携
(継続的な河川の維持管理に民間の経済活動の場をリンク)



人々の賑わいだけではなく
自然環境や生物多様性をおろそかにして
「川の国埼玉」は実現はない

「川の国埼玉」の実現にむけて

これまでは主に河川空間の利活用の視点での官民連携
(継続的な河川の維持管理に民間の経済活動の場をリンク)



人々の賑わいだけではなく
自然環境や生物多様性をおろそかにして
「川の国埼玉」は実現はない

メンバーからの意見・アイデア等

メンバーからの意見・アイデア等



生物多様性条約第15回締約国会議COP15



2020 UN BIODIVERSITY CONFERENCE
COP 15 - CP/MOP10-NP/MOP4
Ecological Civilization-Building a Shared Future for All Life on Earth
KUNMING · CHINA



2030年を期限とした新たな世界目標のひとつとして「30by30」
世界の陸と海の30%以上を生物多様性のために守ることが合意

昆・モザ組 ターゲット3 (30by30目標)

Target 3

Ensure and enable that by 2030 at least 30 per cent of terrestrial, inland water, and of coastal and marine areas, especially areas of particular importance for biodiversity and ecosystem functions and services, are effectively conserved and managed through ecologically representative, well-connected and equitably governed systems of protected areas and other effective area-based conservation measures, recognizing indigenous and traditional territories, where applicable, and integrated into wider landscapes, seascapes and the ocean, while ensuring that any sustainable use, where appropriate in such areas, is fully consistent with conservation outcomes, recognizing and respecting the rights of indigenous peoples and local communities, including over their traditional territories.

ポイント

- ✓ **陸** (陸域と陸水域) と **海** (沿岸域と海域) の **30%以上** を
- ✓ **保護地域** と **OECD** で保全・管理し、
- ✓ より広域の陸上/海洋景観及び海洋に統合する

「OECM」について



OECM全体像イメージ

注) 今後の検討によって変更の可能性あり

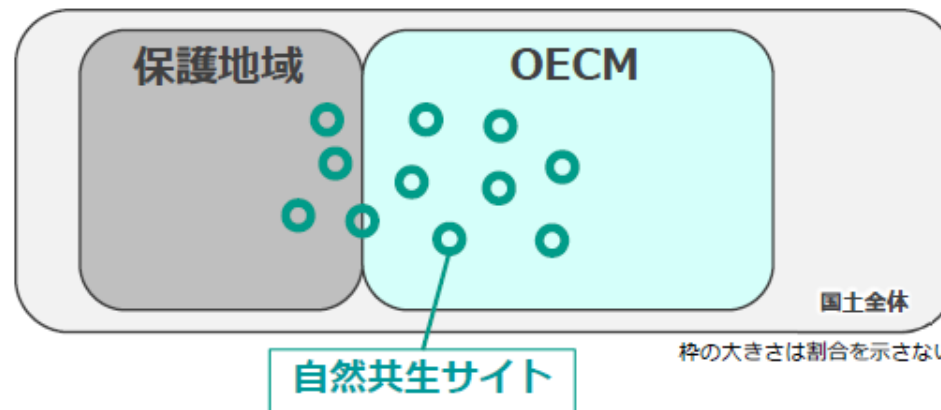
陸 域

- 自然共生サイト認定区域
(保護地域との重複を除く)
- 団体との連携協定
- 国の制度等に基づく管理区域

海 域

- 【沿岸域】
 - 自然共生サイト認定区域
(保護地域との重複を除く)
- 【沖合域】
 - 国の制度等に基づく管理区域

保護地域、OECM、自然共生サイトの関係



環境省資料より抜粋
「資料1 自然共生サイト（仮称）と
経済的インセンティブ等との関係について」

「自然共生サイト」について



- 「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を保護地域内外問わず「自然共生サイト」に認定。
- 「自然共生サイト」に認定された区域のうち、保護地域との重複を除いた区域を「OECD」として登録。

自然共生サイト

民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域
(申請主体：企業、団体・個人、自治体)

申請

自然共生サイト
認定

審査 (認定主体：環境省)

「自然共生サイト」のうち、保護地域との重複を除外した区域

OECDとして国際データベースに登録

注) 「自然共生サイト」の「(仮称)」は便宜上、本資料では省略

環境省資料より抜粋
「資料1 自然共生サイト(仮称)と
経済的インセンティブ等との関係について」

- 「自然共生サイト」は、認定を契機とし、生物多様性の価値が広く認知され、価値の維持や質の向上が図られていくことが期待。
- 一方で、「自然共生サイト」は、民間の取組等によって保全が図られている区域であることから、価値の維持や質の向上の取組を促進するためには、自然共生サイトの土地所有者・管理者・支援者に対する、経済的なものを含むインセンティブ付与が重要。
- そのため、「30by30に係る経済的インセンティブ等検討会」において、主に「自然共生サイト」に対する「インセンティブ」を検討中。

メンバーからの意見・アイデア等



埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム

「水辺空間及び都市公園等の持続可能な利活用に関する検討部会」に係る研修会

「SDGs と自然共生サイト」

人を守り、生きもので賑わう調節池・遊水地を

令和5年3月23日（木）

13:30～16:00

埼玉県・(公財)埼玉県生態系保護協会

研修会「SDGsと自然共生サイト」

人を守り、生きもので賑わう調節池・遊水地を

温暖化による災害の激甚化と生物の減少を同時に解決する取組

→生物で賑わう調節池・遊水地が

グリーンインフラとして注目

<今後の方向性>

30by30の達成に向けて調節池・遊水地を

「自然共生サイト」として位置づけ



芝川第一調節池（さいたま市）

「SDGs と自然共生サイト」

＊人を守り、生きもので賑わう調節池・遊水地を＊

■プログラム（案）

○基調講演

「自然共生サイトの今後の動向と生きもので賑わう調節池・遊水地とは」

○事例紹介①

戸田ヶ原自然再生事業、芝川第一調節池

荒川太郎右衛門自然再生地・三ツ又沼ビオトープ

○事例紹介②生物多様性に貢献する県内企業・団体の取組

武蔵野銀行、凸版印刷、サイサン環境保全基金

部会における具体的な取組

部会における具体的な取組

<横瀬エリアプロジェクトチーム>

横瀬川は、町内の中央を流れており
身近な自然、景観資源となっている

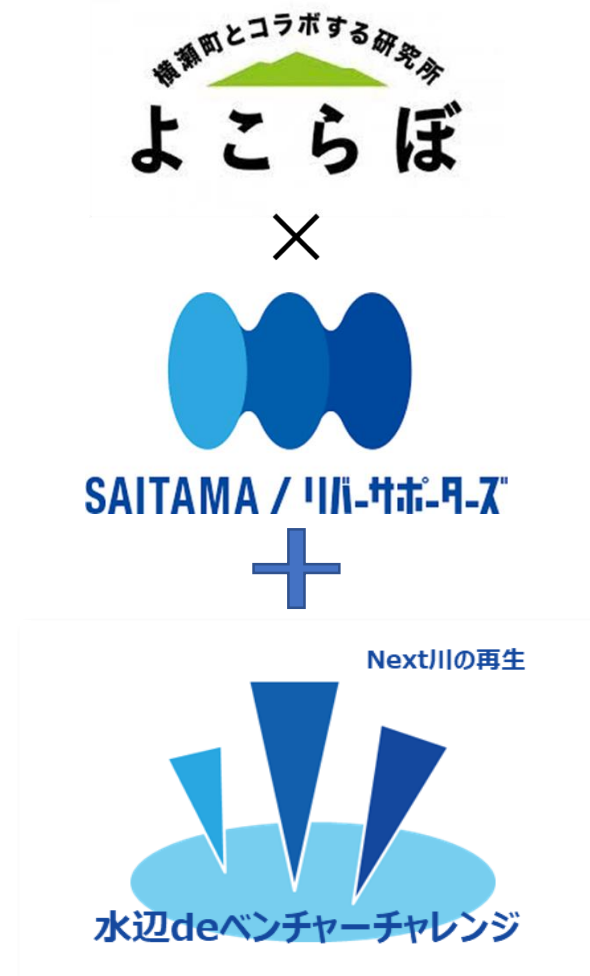


特にウォーターパーク・シラヤマ周辺は
水辺再生100プランによる整備で親水性が
向上し、町内外から多くの利用者訪れている

部会における具体的な取組

<横瀬エリアプロジェクトチーム>

- ・ 利活用の目的、目指す将来像
横瀬町が実施する官民連携プラットフォーム「よこらぼ」において、県の「リバーサポーターズプロジェクト」からの提案事業が採択され、官民が連携し、川（水辺）の新たな魅力や賑わいの創出を目指す
- ・ 想定する河川空間の利活用
参加企業から提案される事業を横瀬川とウォーターパーク・シラヤマを一体的に活用した商業的空間利用と子どもが自由に川と触れ合える水遊び等の河川空間を同居させる



部会における具体的な取組

河川空間の利活用イメージ



- 水辺deベンチャーチャレンジ事業により、R7整備完了を目指す
- R5から、リバサポでテストイベントを順次実施

部会における具体的な取組

○12/13 リバサポ企業サポーターの(株)J&J事業創造と連携し、SDGs × 観光まちづくり 研修プログラムを実施

ビジネスカードゲーム

気づき(認知・理解)

- ・SDGsに対する理解
- ・地域の課題を自分ゴト化・学習
- ・チームビルディング

ワークショップ

行動変容

- ・SDGsを意識したまちづくりの重要性理解
- ・地域の想いを具体的にした事業案の作成
- ・新しい取組の必要性の気づき



今後の展開

今後の展開について

<大相模調節池プロジェクトチーム>



民間事業者との協定締結（令和4年8月）

○水辺deベンチャーチャレンジにより今後、民間連携による水辺の利活用が進む大相模調節池の水質改善の取組を検討していく

今後の展開について

<大相模調節池プロジェクトチーム>



水面を静かに漂う動く栈橋「海床ロボット」



浮く畑による水質浄化

ご清聴ありがとうございました